

20000888

厚生科学研究研究費補助金

健康科学総合研究事業

都道府県レベルで活用できる効果的な研修技法
の開発に関する研究

平成 12 年度 総括研究報告書

主任研究者 曾根 智史

平成 13 年 3 月

目 次

I. 総括研究報告書	1
都道府県レベルで活用できる効果的な研修技法の開発に関する研究 曾根 智史	
(資料 1) 米国エモリー大学 Survey Methods シラバス	9
(資料 2) Survey Research Methods (Fowler)	16
(資料 3) 国立公衆衛生院特別演習計画書	20
(資料 4) 国立公衆衛生院合同臨地訓練資料	23
(資料 5) 配布された演習課題・練習問題	30
(資料 6) 第 2 回受講者ノート	39
(資料 7) 研修会事後意見調査調査票	42
II. 研究成果の刊行に関する一覧表	45
III. 平成 12 年度研究班名簿	45

都道府県レベルで活用できる効果的な研修技法の開発に関する研究

主任研究者 曾根 智史 国立公衆衛生院公衆衛生行政学部 健康教育室長

研究要旨

平成12年度は、現場ですぐ活用できる社会調査法修得のための研修技法の開発を目的として、以下の2点を実施した。

- (1) 米国の公衆衛生大学院の社会調査法関連科目、海外の教科書、国立公衆衛生院の特別演習及び合同臨地訓練等を参考に、自治体の公衆衛生従事者を対象とした、演習主体の卒後研修プログラム（3日間）を開発。
- (2) 実際にI県の保健所、市町村保健センターの公衆衛生従事者を対象とした研修会で使用し、受講者に対して事後意見調査を実施。

以上より、基本的に本テーマのような技術伝達型の研修において、このような演習主体の方法は有効であることがある程度明らかとなった。また、このような演習主体の研修と現場での実践を組み合わせ、それを都道府県がサポートしていく体制が、研修を実際の業務に活かしていく上で必要であると考えられた。

A. 研究目的

「健康日本21」の地方計画の策定とその実施が喫緊の課題とされている現在、各自治体においてもその地域特性に応じた健康指標の選択とその測定は重要な課題となっている。一方、高齢社会に移行や住民の生活の多様化のために、従来用いられてきた「死亡率」や「罹患率」だけでは、その地域の状況を正確に把握することは困難になりつつある。行政側としても、よりよい計画の立案・実施・評価のためには、住民の生活の質やニーズ、満足度を測定することが求められており、その道具の一つとして社会調査法の重要性が増してきている。

しかしながら、多くの場合、公衆衛生従事者の卒前・卒後教育における社会調査法に関する教育研修は十分でなく、公衆衛生従事者のこの分野での力量不足は、第一線の現場において調査研究を実施す

る上での大きな障害の一つとなっている。また、現在の地域保健の現場に合った適切な教科書もほとんどないのが実状である。

そこで、本研究では、現場ですぐ活用できる社会調査法修得のための研修技法の開発を目的として、以下の2点を実施した。

- (1) 米国の公衆衛生大学院（School of Public Health）の社会調査法関連科目、海外の教科書、国立公衆衛生院の特別演習及び合同臨地訓練等を参考に、自治体の公衆衛生従事者を対象とした、演習主体の卒後研修プログラム（3日間）を開発。
- (2) 実際にI県の保健所、市町村保健センターの公衆衛生従事者を対象とした研修会で使用し、受講者に対して事後意見調査を実施。

B. 社会調査法に関する演習主体の卒業 研修プログラム（3日間）の開発

B-1. 参考としたプログラム及び資料

プログラム開発のため、以下に示すように米国の公衆衛生大学院の社会調査法関連科目、海外の教科書、国立公衆衛生院の特別演習及び合同臨地訓練等を参考にした。

- (1) 米国エモリー大学公衆衛生大学院
修士課程の必須科目「Survey
Methods」

資料1に標記科目「Survey Methods」のシラバスを示す。本科目は約3ヶ月をかけて、調査法の講義と実際の調査を並行して実施し、理論と実践の両面から調査法を修得させることを目的としたものである。

本科目は著者が実際に受講したものであるが、調査実習は、学生を対象に学習環境や学生生活に関する調査を行った。

「面接調査」と「自記式質問票による調査」の2グループに分かれ、学生が主体的に、目標設定、標本抽出、質問票作成、調査、結果集計、発表、レポート作成までを協力して行い、教官は理論面での講義と個別の質問への応答を通じて指導していくというものであった。

本研究の目的とする、現場ですぐ活用できる社会調査法修得のための研修技法の開発のための一つの雛形というべきものであるが、3ヶ月と長期に渡るプログラムであること、実習対象が地域ではなく学生であること、多人数でのグループワーク主体であることなど、今回対象とする地方自治体の公衆衛生従事者のための短期研修にそのまま当てはめるのは困難であると考えられた。カリキュラムの基本的な考え方、盛り込むべき内容、宿題、質問票作成の技法及び実習で学んだグループワークの方法などの要素を抽出

して盛り込むこととした。

(2) Sage 出版の“Survey Research Methods”

資料2に Sage 出版の“Survey Research Method”の目次及び内容の一部を示す。本書はコンパクトながらも、社会調査を行う上での必要事項や留意点が網羅されており、実用的な好著である。残念ながら英文であるため、本研究で参考書として直接用いることは難しかったが、調査票の作成とデータ収集、未回答バイアスに関する記述は研修内容と教材の参考にした。

なお、本書を含む参考図書を以下にあげる。

- 1) Fowler FJJr: Survey Research Methods. 2nd edition. Sage Publications, NewburyPark, 1993.
- 2) Salant P, Dillman DA: How to Conduct Your Own Survey. John Wiley & Sons, New York, 1994.
- 3) Kerr C, Taylor R, Heard G: Handbook of Public Health Methods. McGraw Hill Australia, Sydney, 1998.

(3) 国立公衆衛生院の特別演習

資料3に国立公衆衛生院の専攻課程（1年コース）で行う個人研究（特別演習）の計画書を示す。いずれも著者が過去数年間に指導教官を務めた学生が研究立案段階で作成したものである。いずれも必ずしも完璧であるとは言えないが、研究の動機や目的について懸命に考察した跡が窺え、本研究の教材として用いることとした。

さらに、著者が過去数年間に指導した十数名の学生が共通して悩んだり苦労した点を本研究の中に積極的に盛り込んだ。

(4) 国立公衆衛生院の合同臨地訓練

資料 4 に国立公衆衛生院が専門・専攻課程で実施している合同臨地訓練（チームによるフィールド実習）において、数年前に著者が指導教官を務めた調査の概略とデータの単純集計結果を示す。この調査は目的、調査方法が明確でわかりやすく、かつ単純集計結果から多くの事実が読み取れるため、結果の分析の教材として用いることとした。

さらに、著者が過去数年間に指導した数チームの経験を本研究の中に積極的に盛り込んだ。

【倫理面への配慮】プログラム及び教材の開発にあたっては、個人名を伏せるなどプライバシー等に最大限配慮した。

B-2. 社会調査法に関する演習主体の 卒後研修プログラムの概要

I 県より依頼された「健康づくり指導者研修会」の概要は以下の通りである。

- (1) 目的：「健康日本 21」地方計画の策定、結果評価のための指標の選択とその正しい調査法を身に付け、地域保健活動の計画と評価に関する技能を高める。
- (2) 主催者：I 県健康科学センター
- (3) 対象：市町村または保健所の保健婦・栄養士等（3 回連続で受講できる者）
- (4) 対象人員：30 名
- (5) 場所：同センター大会議室
- (6) 日程：平成 13 年 1 月 17 日、1 月 26 日、2 月 7 日。時間はいずれも 10：00-12：30、13：30-16：00

以上の概要及び研修担当者との打ち合わせより、対象者は「地域保健活動の第一線で活動する公衆衛生従事者であり、

調査研究の重要性は認識してはいるが、本分野における系統的な卒後教育訓練は受けていない者」としてプログラムを開発することとした。

B-3. 社会調査法に関する演習主体の 卒後研修プログラムの内容と留意点

3 日間の内容は、大きく分けて、

- 1 日目：調査の課題・目的の設定、対象・方法の選定
- 2 日目：調査票の作成
- 3 日目：調査の準備・実施、データ入力
と解析

とした。

特に留意した点は、課題・目的設定に大きな時間を割いた点である。これは前述の公衆衛生院での特別演習、合同臨地訓練の指導経験より、調査研究に慣れていない者の多くが最初につまずき、苦勞するのが、この「課題・目的設定」であると考えたからである。多くの公衆衛生従事者の場合、日常の活動を通じて普段からいくつかの矛盾や疑問点を問題意識として持っている。それら問題意識の中から、様々な条件を考慮して、取捨選択を行いながら具体的な調査研究へと絞り込んでいく作業、及びそれを計画書として文章にあらわす作業には、ある程度の知識と訓練が必要である。この段階で十分な考察や絞り込みを行わないと、後の段階、例えば対象の選定や調査票の作成で苦勞したり、極端な場合、データ解析や報告書作成の段階で頭を抱えることになる。従って、この段階に 1 日目の大半を費やすこととした。

また、全体を通して、「いかに質の高いデータを得るか」という点に焦点を当てるようにした。これは、一般に自治体における調査研究では多数の対象者が得ら

れにくいため、小規模の調査でも妥当性と信頼性の高い結果を得ることが調査の成否を左右すると考えたからである。

その他、プログラムの各項目において、以下の点に留意した。

- (1) 調査票の作成において強調した点は、「調査票は、調査者と対象者の間のコミュニケーションの道具である」という点である。調査者が知りたいことが正確に対象者に伝わり、対象者が答えたかったことが正確に調査者に伝わるような調査票の作成を心がけるよう指導した。
- (2) 調査の準備・実施において強調したのは、調査協力者・対象者との信頼関係の重要性という点である。調査依頼から始まり、準備、調査実施、集計、報告会実施、報告書送付などの一連の作業にとって大切なことは、調査協力者及び対象者との信頼関係であり、何を調査協力者・対象者に返せるかを常に考えることである。これは、不測の事態が起こった場合のセーフティネットとして重要であるだけでなく、質の高いデータの収集にとっても、さらに当該調査研究の目的を一貫して考えていく上でも重要な点であることを強調した。
- (3) データ解析において強調したのは、統計手法の利用前に、単純集計結果を熟読すべきという点である。データ解析においては、ともすれば単純集計結果や分布を見ずに、直接様々な検定手法や多変量解析を行い、有意差の有無だけをもとに考察を述べてしまいがちであるが、それはデータを適切に解釈したとは言えない。地域における調

査研究においては、まず単純集計結果を熟読し、次にクロス集計を行った上で、適切な変数について適切な統計手法を用いて解析を進める方が結局データを活かすことになることを強調し、演習を実施した。

以上のように、全体として、「課題・目的設定の重視」、「質の高いデータの獲得」の2テーマに常に話題をフィードバックしながら、個々の項目についても中心テーマを決め、研修内容を構築した。

B-4. 社会調査法に関する演習主体の 卒後研修プログラムの具体的内容

3日間の研修の具体的項目を演習問題と併せて以下に示す。なお、受講者に配布した演習問題用紙を資料5に添付した。

第1回(1日目)

調査の課題・目的の設定、対象・方法の選定

【1】本研修の目的

【2】調査の立ち上げ

(1)調査の動機(根本的な前提の確認)

(2)行政研究の意味

個人演習1

課題1:あなたの市町村・管内で、現在何とかしなければならないな、と
思われている課題を少なくとも3
つあげなさい(箇条書きでよい)。

課題2:その中で、今回の研修であなた
自身のテーマにしたい課題を1つ
選び、◎をつけなさい。

【3】研究課題の決め方

(1)研究動機の記事化

(2)研究目的の記事化

→本報告書資料3:

国立公衆衛生院専攻課程特別演習の
計画書を参考資料として配布

個人演習 2

課題 3：先ほど決めた自分の研究テーマ
について、研究動機（このテーマ
を考えついた理由）、研究目的（何
を明らかにしたいのか、この研究
結果をどう用いるのか。）を簡潔に
書きなさい。

グループ演習 1

課題 1：隣の人に、今書いた研究テーマ、
研究動機、研究目的を 5 分以内で
説明しなさい。隣人はそれに対
し、少なくとも 5 つの質問をしな
さい。説明者はそれぞれの問いに
対し、簡潔に答えなさい。（交代で
行う。）

【4】調査対象の選定

- (1) 目的に合致した対象者と場
- (2) 実現可能性
- (3) 調査対象数

【5】調査方法の選定

個人演習 3

課題 4：先ほど決めた自分の研究テーマ
について、予算 10 万円として、対
象（どこの誰に対して調査を行う
か。どのように対象を選ぶか。）、
方法（どのような場でどのような
方法でデータを集めるか。）を簡潔
に書きなさい。

個人演習 4（宿題）

課題 5：先ほど決めた自分の研究テーマ
について、具体的な調査項目（対
象に訊く内容）を列挙しなさい。

第 2 回（2 日目）

調査票の作成：詳細は資料 6（受講者ノ
ート）を参照のこと

【1】調査票の構成

【2】調査票の量、かかる時間

【3】言葉遣い、用語

【4】表紙（1 枚目）に記載する事項

【5】属性をきく

【6】質問の順序

【7】質問形式

【8】選択枝の種類と基本原則

練習問題 1

以下の質問（質問文と選択枝）に不適
切なところがあれば指摘し、訂正しな
さい。不適切な部分は 1 ヶ所とは限らない。
（質問は本報告書資料 5 を参照のこと）

第 3 回（3 日目）

調査の準備・実施、データ入力と解析

【1】調査の準備

- (1) スケジュール
- (2) 調査協力者への対応
- (3) プレテスト
- (4) 面接者の訓練
- (5) 配布・回収方法の統一

【2】調査実施

- (1) 回収方法
- (2) 督促状
- (3) 回収率
- (4) 質問・クレームへの対処

【3】データ入力

- (1) 自分たちでやる
- (2) 業者に依頼

【4】データ解析

- (1)まず単純集計から始める
- (2)次にクロス表作成
- (3)有意差検定、多変量解析など
- (4)有意差とは

練習問題 2～4

別添資料（本報告書資料 4 参照のこと）は、東京近郊のある市において、一般市民と飲食店を対象に実施した、外食における栄養成分表示に関する調査の概要と単純集計結果を示したものです。これを読んで、以下の質問に答えなさい。

質問 1：単純集計結果から得られる所見のうち、あなたが重要だと思うことを列挙しなさい。

質問 2：単純集計の結果をもとにクロス表を作成するとしたら、どの変数とどの変数を掛け合わせますか。変数の組み合わせを列挙し、それぞれについて予想される結果（仮説）を簡潔に書きなさい。

質問 3：以下のクロス表から読みとれる所見を簡潔に書きなさい。（表は本報告書資料 5 参照のこと）

【5】質の高いデータとは

【6】報告書、学会抄録のまとめ方

C. 社会調査法に関する演習主体の卒後研修プログラムの開催状況

- (1) 事前登録者数 39 人（保健所 10 人、市町村保健センター 29 人）
- (2) 当日受講者数 第 1 回 36 人、第 2 回 37 人、第 3 回 34 人、3 回とも出席した者 30 人、3 回とも欠席した者 0 人
- (3) すべて女性

D. 社会調査法に関する演習主体の卒後研修プログラム（3 日間）の評価

D-1. 評価の概要

本来であれば、本プログラムによって受講者の調査に関する知識・態度・技能がどのように変化したかという影響評価（Impact Evaluation）、さらにその結果、保健所や市町村で実施される社会調査の数がどのように変化したかという結果評価（Outcome Evaluation）をできるだけ客観的な評価指標を用いて実施すべきであるが、研修プログラムが 3 日間に限られていたこと、研修プログラム実施時期が年度末であったなどの制約のため、今回は研修終了時にプログラムの内容に関する受講者に対する意見調査というプロセス評価（Process Evaluation）を実施した。

D-2. 調査対象と方法

3 日目の受講者 34 人を対象に、研修終了後に無記名自記式質問票を配布し、その場で回収した。

【倫理面への配慮】無記名とし、回収にあたっては、プライバシーの保護に配慮した。

D-3. 質問項目

属性、それぞれの回について講義内容の難易と課題・練習問題の難易を 5 段階で評価、自らのニーズとの一致、本研修の他の人への勧奨、60 点を合否ラインとしたときの本研修の採点、自由記載。

詳細は本報告書資料 7 を参照のこと。

D-4. 結果

(1) 回収状況

3 日目出席者 34 人に配布し、33 人から有効回答を得た（有効回答率 97%）。

保健婦 82%、栄養士 18%であった。

表1 講義内容および課題・練習問題の難易(事後意見, n=33)

	講義内容(%)			課題・練習問題(%)		
	第1回	第2回	第3回	第1回	第2回	第3回
1. たいへん易しかった	9.4	12.5	6.1	3.1	0.0	3.0
2. 易しかった	68.8	59.4	60.6	9.4	9.4	18.2
3. どちらともいえない	12.5	12.5	6.1	37.5	18.8	33.3
4. 難しかった	9.4	15.6	24.2	46.9	62.5	42.4
5. たいへん難しかった	0.0	0.0	3.0	3.1	9.4	3.0
平均(ポイント)	2.2	2.3	2.6	3.4	3.7	3.2

表2 事前の期待への合致度と同僚への勧奨(事後意見, n=33)

事前の期待への合致度(%)		同僚への勧奨(%)	
1. とても一致していた	27.3	1. とても勧めたい	54.5
2. だいたい一致していた	42.4	2. できれば勧めたい	33.3
3. どちらともいえない	12.1	3. どちらともいえない	9.1
4. あまり一致していなかった	18.2	4. あまり勧めたくない	3.0
5. まったく一致していなかった	0.0	5. まったく勧めたくない	0.0
平均(ポイント)	2.2	平均(ポイント)	1.6

(2) 講義内容及び課題・練習問題の難易

表1に示すように、総じて講義内容の方が易しく、課題・練習問題の方が難しいという回答が得られた。平均(ポイント)は、各選択肢の番号を単純平均したものであるが、上記の傾向を裏付けている。受講者にとって、講義は第3回が比較的難しく、課題・練習問題は第2回が最も難しかったと考えられる。

(3) 事前の期待への合致度と同僚への勧奨

表2に示すように回答者の一部には、事前に期待していた研修と異なると感じる者がいた。ただ、全体としては同僚に勧めたいとする者が多くを占めた。

(4) 60点を合否ラインにした場合の本研修プログラムの採点

最小値 50 点、最大値 100 点、平均値 78.9 点、標準偏差 11.6

10 点刻みで見た場合、最も多かったのは 80 点台であった。

(5) 自由記載意見

良かった点としては、(1)演習を主体にしていたので、グループワークや講義主体の研修より自分自身で考えることができた、(2)実際にすぐ使えそうである、などの意見があった。

また、改善したい点としては、(1)それぞれの課題に対する受講者個人へのコメントがほしかった、(2)研修開催通知の内容と実際の研修内容が異なった、(3)今後のフォローアップ体制がほしい、などの意見が得られた。

D-5. 考察

事後意見調査の結果を見ると、今回実施した演習主体の研修プログラムは、課題・練習問題の内容がやや難しかったとの反応はあったものの、概ね受講者にとって満足いくものであったことがわかる。講義やグループワークでは、ともすれば集団の中に埋没して、受講者によっては本来の研修目標を達成できないこともある。各受講者が自分自身の責任で取り組まざるを得ないこのような演習主体の研修は、特に今回のような技術伝達型の内容の場合、有効であると考えられた。

先にD-1. 評価の概要で述べたように、今回はプロセス評価のみであったが、今後は、研修が現場でどのように活かされているかまで評価していくことが望ましい。そのためには、県と協力しながら、研修とその後のフォローアップを組み合わせるような体制づくりが必要であると考えられる。

E. 結論

今回、国内外の様々な文献や実際の米国公衆衛生修士課程、公衆衛生院の科目を参考にして、社会調査法に関する研修プログラムを開発した。実際に使用し、受講者の反応や事後意見調査から、基本的に本テーマのような技術伝達型の研修において、このような演習主体の方法は有効であることがある程度示された。本来であれば、米国や公衆衛生院の科目のように、実習を組み合わせるのが最善と考えられるが、実際の現場では研修に長時間を割くことは困難である。したがって、このような演習主体の研修と現場での実践を組み合わせ、それを都道府県や都道府県健康科学センターがサポートしていく体制が、研修を実際の業務に活かしていく上で必要であると考えられた。

今後は都道府県と協力し、このようなサポート体制をも含めた一貫性のある研修プログラムの開発に努めたい。

謝辞

今回の研究にあたり、多大なご協力をいただいた茨城県健康科学センター及び研修会受講者の皆様に厚く御礼申し上げます。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

- 1) 曾根智史、岩永俊博、鳩野洋子、山田和子：自治体の公衆衛生従事者研修で用いられる研修技法に関する研究. 第59回日本公衆衛生学会総会, 2000年10月
- 2) 河西あかね、曾根智史：地域福祉サービス提供者に対する保健所の研修の役割と活用のための条件. 第59回日本公衆衛生学会総会, 2000年10月

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

資料1 米国エモリー大学 Survey Methods シラバス

IH 532/BSHE 544
Survey Methods
Spring 1994

Course Instructor: Joan Herold, Ph.D.

Office Hours: Thursday 3:00-5:00
(Appointment sign up sheet on office door)

Office and Phone: Room 4029 ACS Building, 727-5724

Teaching Assistants: Cheryl Silberman (Fri: 12-2 pm)
Tim Petersen

	Mon	Tues	Thurs
<u>Office Hours:</u> TBA	9-11	10-12	10-12
<u>Office and Phone:</u> Cubicle C15, 727-4145	1-3	2-4	3-5
	3-5		

Credit: 3 credit hours

Time and Place: Monday 11:00-11:50, room 228 ACS Building and computer lab
Thursday 1:00-2:50, room 232 ACS Building

Prerequisites: EPI 507 - Introduction to Epidemiology, or
EPI 504 - Fundamentals of Epidemiology, or
permission of course instructor

Course Description: This course is designed to expose students to survey and sampling methodology and to several types of surveys used in international public health. The course teaches the process of carrying out a survey, from designing the questionnaire to producing the final report.

Course Objectives: At the end of the course students will be knowledgeable about:

1. specific aspects of survey methodology, including
 - questionnaire design
 - sampling techniques
 - coding and editing of data
 - descriptive data analysis
2. various types of survey designs
3. the practical applications of survey methods, including
 - problems encountered in the field
 - limitations imposed by budget and time constraints
4. research protocol design
5. the computer program, Epi Info

Required Readings: There are three sources of readings:

- a) The text for this course is: Floyd J. Fowler, Jr. SURVEY RESEARCH METHODS. Newbury Park, Ca: SAGE Publications Ltd 1989. (available at the Emory bookstore)
- b) The Epi Info manual: Dean, J.A., Dean A.G., Burton, A., Dicker, R. EPI INFO VERSION 5: COMPUTER PROGRAMS FOR EPIDEMIOLOGY. Atlanta: U.S. Department of Health and Human Services, CDC. (available at the Emory bookstore)
- c) other readings will be distributed in class during the semester

Course Requirements:

Students are required to complete a survey project which will involve individual and group work. The steps of this project are as follows:

- a) Write an annotated protocol outline
- b) Design a short preliminary questionnaire (2 pages in length)
- c) Design a short final questionnaire
- d) Enter questionnaire into the computer using Epi Info
- e) Select a sample from the target population
- f) Conduct interviews and/or administer questionnaires
- g) Enter data into the computer
- h) Generate tables using Epi Info (2 per student)
- i) Perform a simple analysis of the data
- j) Give an oral presentation of the survey procedure and results
- k) Write a short final report (5 double-spaced pages of text and 4-5 tables).

Steps b,d,h, and k will be done independently by each student. All other steps will be done as group work.

Project Description -- READ CAREFULLY:

The class will be divided into two or more working groups for this project. As a group you will carry out a survey, which will include the steps outlined above.

The parts of the project that will be done on an independent basis (each student doing his or her own work) are: (1) writing a preliminary questionnaire, (2) entering a questionnaire onto the computer using Epi Info, (3) producing tables using Epi Info, and (4) writing a final report. These four independent activities are integrated into the group work as follows:

- (1) Each student will write his or her own preliminary questionnaire. These preliminary questionnaires will be reviewed and corrected by the instructor and returned to the students. Each group will then select the best questions from the preliminary questionnaires to produce one final group questionnaire.
- (2) Each student will enter 2 pages of his or her own preliminary questionnaire onto the computer in Epi Info to gain experience with this aspect of Epi Info.

- (3) Although you will work as a group to plan your analysis and decide on the variables that will be included in the analysis, each student will independently create two preliminary tables using Epi Info.
- (4) Students will work as a group for the oral presentation of results, but each person is required to independently write his or her own final report. This report should describe the survey methods used, present the data in tabular form (one graph may also be used), and interpret and discuss the results.

All members of the group are expected to participate in every step of the survey. How this participation is distributed among the group members will be managed by the group. It is preferred that any interviewing be distributed as equally as possible among the group members except in cases where there may be language difficulties. Prior to the actual interviews, it is important that the groups have a preparation session to practice interviewing and to verify that all are in agreement regarding the meaning of questions and how to record responses. Data entry is to be done and checked by all members of the group. The analysis should be planned and discussed by the group before tables are produced by individual members.

All students must learn to use the "Epi Info" computer program, including questionnaire creation, data entry and tabulations.

Evaluation:

The final grade will be based on various parts of the project and on class participation. Distribution of the final grade is as follows:

Research Protocol	10%
Preliminary Questionnaire	20%
Preliminary tables	10%
Oral presentation	20%
Final report	40%

Any final reports submitted that exceed the 5 double-spaced page limit for text or 5 tables limit will be returned to the student for revision. In such cases, the student will receive a grade of I (Incomplete) until the requisite page and table limit is met.

**IH 532/BSHE 544
Assignment Schedule**

Jan. 13 The Research Protocol and Research Design (Herold)

Jan. 20 Overview of Survey Methods (Peavy)

Assignment due: Work groups finalized
Read: Fowler, Chapters 1 and 4; Handbook: Chapters 2,4,6

Jan. 27 Questionnaire Design I (Wingo)

Assignment due: Parts II, III, IV and V of protocol outline
(Group Assignment)
Read: Fowler, Chapters 5 and 6

Feb. 3 Questionnaire Design II (Herold)

Assignment due: Preliminary questionnaire: 2 pages or 5-10 questions. One page should deal with basic demographic information. (Individual Assignment)

Feb. 10 Complete first draft final questionnaire (group)

Feb. 14 Introduction to Epi Info - Questionnaire and Data Entry
(Sullivan) - Bring the Epi Info Manual to class.
THIS LECTURE WILL BE HELD IN THE COMPUTER LAB.

Feb. 17 Questionnaire Review (Herold)

Assignment due: Two pages of preliminary questionnaires
produced in Epi Info
(Individual Assignment)

Feb. 21 Complete second draft final questionnaire (group)

Feb. 24 Sampling Methods I (Flagg)

Assignment due: Read: Fowler, Chapters 2 and 3

Feb. 28 Complete final questionnaire (group)
Select Sample

March 3 Sampling Methods II (Flagg)

Assignment due: Sample selection completed
Final questionnaire ready to mail
(Group Assignment)

March 7&10 SPRING BREAK - no class

March 3-31 THIS TIME WILL BE SPENT SCHEDULING AND CONDUCTING
INTERVIEWS, OR ADMINISTERING MAILED QUESTIONNAIRES,
AND ENTERING DATA ONTO THE COMPUTER.
(Group Assignment)

March 17 Cluster Sample Surveys to Measure Infant and Child Health
Parameters in Developing Countries (Deming)

Assignment due: Read: Fowler, Chapter 7

March 24 Logic of Analysis and Presentation of Data (Herold)

Assignment due: Read: Fowler, Chapters 8 and 9

March 28 Epi Info - Data Analysis (Sullivan)

This lecture will be held in computer lab.

Assignment due: Two table shells hand written
(Individual Assignment)

Bring the Epi Info manual to class

March 31 Analyzing Survey Data (Webster)

Assignment due: Parts VI, VII and XI of protocol outline
(Group Assignment)

April 7 Implementing Family Planning Surveys in Latin America (Morris)

Assignment due: Two preliminary tables in Epi Info
(Individual Assignment)

April 14 Cluster Sample Surveys to Measure Infant and Child Health Parameters in Developing Countries (Deming)

Assignment due: Parts VIII, IX and X of protocol outline
(Group Assignment)

April 18 & 21 Student Presentations

Assignment due: **ORAL PRESENTATIONS**
(Group Assignment)
Read: Fowler, Chapters 10 and 11 for good background for preparation of presentations and final reports.

April 25 Review

April 28 NO CLASS

Assignment due: 1) Final report - 5 double-spaced pages of text and 4-5 tables) (Individual Assignment)

2) Revised protocol outline, including Part I "Summary"
(Group Assignment)

IH 532/BSHE 544
Lectures

<u>Lecturer</u>	<u>Topic</u>
Joan Herold, PhD CIH & BSHE Emory School of Public Health	The Research Protocol and Research Design
Virgil Peavy, MS Public Health Practice Office, CDC	Overview of Survey Methods
Phyllis Wingo, PhD Division of Reproductive Health, CDC	Questionnaire Design I
Joan Herold, PhD	Questionnaire Design II
Kevin Sullivan, PhD CIH Emory School of Public Health	Introduction to Ep Info: Questionnaire and Data Entry
Elaine Flagg, PhD EPI Emory School of Public Health	Sampling Methods I
Elaine Flagg, PhD	Sampling Methods II
Michael Demming, MD International Health Program Office, CDC	Cluster Sample Surveys to Measure Infant and Child Health Parameters
Joan Herold, PhD	Logic of Analysis and Presentation of Data
Kevin Sullivan, PhD	Epi Info: Data Analysis
Linda Webster, PhD EPI Emory School of Public Health	Analyzing Survey Data
Leo Morris, PhD Division of Reproductive Health, CDC	Implementing Family Planning Surveys in Latin America

ORAL PRESENTATIONS

SURVEY RESEARCH METHODS

Second Edition

Floyd J. Fowler, Jr.

**Applied Social Research Methods Series
Volume 1**



SAGE Publications

International Educational and Professional Publisher
Newbury Park London New Delhi

Contents

Preface	ix
1. Introduction	1
Reasons for Surveys	1
The Components of Surveys	4
Purposes and Goals of This Text	8
2. Sampling	10
The Sample Frame	11
Selecting a One-Stage Sample	14
Multistage Sampling	18
Making Estimates From Samples and Sampling Errors	26
Calculating Sampling Errors for Simple Random Samples	28
Effects of Other Sample Design Features on Sampling Errors	31
How Big Should a Sample Be?	33
Sampling Error as a Component of Total Survey Error	35
Exercise	36
3. Nonresponse: Implementing a Sample Design	38
Calculating Response Rates	39
Bias Associated With Nonresponse	40
Reducing Nonresponse in Telephone or Personal Interview Surveys	43
Reducing Nonresponse to Mail Surveys	45
Correcting for Nonresponse	47
Nonprobability (or Modified Probability) Samples	49
Nonresponse as a Source of Error in Survey Samples	52
Exercise	53
4. Methods of Data Collection	54
Major Issues in Choosing a Strategy	55
Summary Comparison	64
Conclusion	67
Exercise	68

5. Designing Questions to Be Good Measures	69
Designing a Reliable Instrument	70
Types of Measures/Types of Questions	80
Increasing the Validity of Factual Reporting	86
Increasing Validity of Subjective Questions	91
Error in Perspective	92
Exercises	93
6. Designing and Evaluating Survey Questions	94
Defining Objectives	95
Preliminary Question Design Steps	95
Design, Format, and Layout of the Survey Instrument	99
Field Pretest	100
Survey Instrument Length	103
Conclusion	103
Exercise	104
7. Survey Interviewing	105
Overview of Interviewer Job	105
Interviewer Recruitment and Selection	109
Training Interviewers	111
Supervision	114
Survey Questions	116
Interviewing Procedures	117
Validation	118
The Role of Data Collection in Survey Error	119
Exercise	122
8. Preparing Survey Data for Analysis	123
Formatting a Data File	124
Constructing a Code	125
Approaches to Data Entry	126
Data Cleaning	130
Coding and Data Reduction as Sources of Error in Surveys	130
9. Ethical Issues in Survey Research	132
Informing Respondents	132
Protecting Respondents	133
Benefits to Respondents	134
Ethical Responsibilities to Interviewers	135